

❖❖ 農山漁村女性・シニア活動表彰 ❖❖

農林水産大臣賞

A. 女性地域社会参画部門



子ども達と一緒に収穫を喜ぶ

中山 みつい 茨城県牛久市

笑顔で取り組む食農教育

平成 11 年から 12 年に、茨城県女性農業士会長として全県的な食農活動をリードしながら、地元での食育活動にも「農業のすばらしさを伝えたい」と熱意をもって取り組んだ。小学生を対象にした食農教育は 12 年目を迎え、平成 18 年からは中学生の職場体験受け入れや農業講話などにも活動の幅を広げる。県の農政審議会や女性支援会議へも出席し、女性の視点から様々な提言を行う。平成 17 年から市で初めての女性農業委員に就任、現在 3 期目。



「全国林業女性交流会」において、全林研女性会議相談役として講評する栗原慶子氏

栗原 慶子 埼玉県飯能市

地域の中で輝いて

県内初の女性林業グループを結成し、学習活動や木工品の制作等を開始。平成 9 年、県の林業女性会議「結木の会」を発足、代表となる。同年、全国林業グループ連絡協議会女性会議を結成し、初代会長となり、全国レベルでの女性林業者の組織化に向け尽力してきた。これらの活動が全国に波及し、各都道府県で女性林業者の会が結成されるなど、男性社会だった林業界での女性参画を牽引した。

B. 女性起業・経営参画部門



スタッフとともに

渡邊 政子 群馬県玉村市

兼業農家の嫁から農業経営者としての 39 年～地域の農業を支えたい～

兼業農家に嫁ぎ、義父から経営移譲を受け、経営者となる。米麦生産に畜産部門を導入して複合経営化を進め、その後米麦経営への再転換を図るなど、経営改善に取り組み、着実に規模拡大に取り組んできた。また、J A 若妻会や生活改善グループの結成等、女性ネットワークの構築も推進。平成 17 年、町で女性として初の認定農業者に認定、平成 24 年からは J A 理事として活躍。今後も加工部門の導入や、夫や後継者を加えての法人化も目指しているなど、女性農業経営者の先駆的モデル。



開聞産、採れたて野菜はいかが！

開聞農産物販売所「おふくろの里」運営会 鹿児島県指宿市

地域のみんなと感動を共有できる生きがい型直売所を目指して

昭和 62 年に観光客が多く訪れる唐船峡公園の一角に、無人販売所を設置することから活動を始める。地元の生活改善グループが活動母体となり、食べ方の提案も伴った農産物販売や伝承料理を活用した消費者交流イベントの開催等、販売、運営方法の工夫を行う。高齢化の進む地域において、直売所の継続をめざした後継者育成にも取り組み、その結果、安定した直売所運営により若い農業者も育てている。さらに学校給食センター、保育園、病院、飲食店、ホテルなどへの販路拡大も行っている。

C. シニア起業・地域活性化部門



郷土食を伝える活動をしています

渡邊 貞子 岩手県奥州市

郷土食を伝える、私の活動～食を通じて地域のおふくろになろう～

50 歳代半ばで調理師免許を取得し、62 歳ですいとん専門店「おふくろ」を開業した。飲食店がない地区に開設した食堂は、郷土の食文化の発信基地として親しまれている。すいとんの技を磨いて「岩手県食の匠」に認定され、また、レシピ集「つたえたいおふくろの味」を自費出版もしている。平成 21 年には胆江地方食の匠研究会会長に就任し、「匠」としての力量を発揮している。



地域の方と一緒に奉納味噌づくり

企業組合 小行司健康グループ 山口県田布施町

地域とともに歩む起業グループを目指して

地域の人々の健康な食や暮らしを支える直売・加工活動を進め、食堂運営等の起業活動を展開し、現在、菓子、味噌、食堂、直売など7部門からなる経営を行っている。全員が出資者、経営者、従事者であるとの認識のもと、「企業組合」を設立し、女性の活躍の場、雇用の場としての役割も果たしている。さらに、グループ活動を地域づくり活動へと発展させ、地域活性化の牽引役として活躍している。

❖❖ 農山漁村男女共同参画優良活動表彰 ❖❖

農林水産大臣賞

次世代を担う若手地域リーダー部門

経営参画部門



能登島赤土野菜の出荷作業

高 博子 石川県七尾市

平成12年に結婚と同時に夫とともに就農。「医食同源」「身士不二」をモットーに土づくりや低農薬栽培を実践してきた。平成14年には地元農業者と「能登エコファーマーズ倶楽部」を組織してエコ農業についてのPR活動に取り組むとともに、夫婦で野菜ソムリエの資格を取得。消費者とのコミュニケーションを重視した販促活動の結果、全国のデパートやレストランに野菜を納入するに至った。平成18年には認定農業者に認定。さらに高農園の販売部門を担う（株）能登大地や、エディブルフラワーの栽培・加工販売を行う「りらく」を設立するなど6次産業化の先駆的存在でもある。

地域参画部門



ハート型きゅうりで産地をPR

平野 佳子 千葉県旭市

施設野菜農家に生まれ、結婚後就農。平成16年に経営移譲され、経営主として「JAちばみどり旭胡瓜部会」に参加するが、集まりに出てくる女性が少ないことに疑問を持ち、女性に呼びかけ、市場関係者への試食会などを開催し、女性による産地PRに取り組む。また、キュウリの需要を伸ばすために、部会内に女性9人で「ハート倶楽部」を結成し、初代会長となってハート型キュウリの生産、販売促進活動等に取り組み、年間5万本を出荷。これらの取り組みを通じて、これまで男性社会であった生産組織で、女性たちが発言できる環境づくりに貢献するとともに、女性たちの農業経営への参画意識の向上に大きく貢献した。

組織における女性登用部門



家族経営協定合同調印式

遠野市農業委員会 岩手県遠野市

(農業委員会)

平成24年3月の農業委員の改選期を控え、農業委員会会長が市長、市議会議長へ女性農業委員の選任を要請した結果、市議会から3名の推薦があり、選挙委員1名と合わせて4名の女性が登用された。遠野市農業委員会では、女性による活動を重要な柱に位置づけており、全ての委員会等に女性を配置している。また女性農業委員の活動を実効あるものとするため、農業委員会会長の発案により、「女性農業委員業務検討会」を設置し、この会で話し合われたことは男性の協力を得ながら一体となった成果につなげている。



食と農と女性の会講演会

曾於市農業委員会 鹿児島県曾於市

(農業委員会)

曾於市では農業委員会も参画した「曾於市男女共同参画推進会議」が設置され、審議会・委員会等への女性委員の計画的取り組みを実施している。平成23年度の改選期には、これまでの選任委員の選挙への立候補を促すとともに、新たな女性委員の選任について県女性組織等の協力を得つつ、市長・議長に対して要請活動を展開した結果、選挙委員3名、選任委員3名の計6名の女性農業委員が誕生した（改選前は3名）。農地行政活動はもとより、女性農業委員が中心となり「食と農と女性の会」を設立し、講演会、交流会等を実施して地域の活性化にも大きく貢献している。

❁❁ 農山漁村男女共同参画優良活動表彰 ❁❁

農林水産副大臣賞

次世代を担う若手地域リーダー部門

経営参画部門



自家生産したもち米を利用した赤飯加工

古沢 昌子 栃木県塩谷市

3人姉妹の長女として生まれ平成16年に結婚と同時に本格的に農業を継ぐことを決意し、就農。父の経営する「いなほ総合農園」の加工部門を担当。平成24年に家族経営協定を実父母と締結し、父親との共同申請でエコファーマーと認定農業者の認定を受けた。また、大型特殊免許の取得等、農業技術の習得にも努めている。さらに県内の若手農業者とともに農産物のマーケティングや新商品開発を行う「農援団」活動にも積極的に取り組むとともに農業体験も受け入れるなど、農産物の生産と販売、加工、さらに地域活動まで農業経営にトータルに取り組んでいる。



ハーブ入り米粉シフォンを商品化

梅本 恵子 富山県砺波市

水稻・大豆の種子生産農家に嫁ぎ、夫とともに就農。種子生産に野菜や花き生産を加える複合経営にチャレンジ。平成14年には夫を社長とする「有限会社梅香園」を設立、取締役として花き部門の責任者を務め、社員教育等も担当している。自社農園直売所では、寄せ植え等の講習会を行い集客に努めるとともに、ハーブコーディネーターやアロマセラピーの指導員資格を取得して、各方面で教室も開催。また米粉を利用した菓子の商品化に取り組み、6次産業化のモデルとして注目され、さらに中学生の職場体験や研修生も積極的に受け入れ、担い手育成にも貢献している。

地域参画部門



大好きな花でみんなを笑顔に！

竹中 伸枝 愛媛県伊予市

平成12年就農。積極的にトレードフェアに参加したり、市場出荷を通じて関係者からの生の声を聞くことにより、販路開拓や品質向上に取り組む。また、スイスの畜産農家での研修をきっかけに園芸療法に目覚め、認定園芸療法士の資格を取得。花を育てる楽しみを通じて病気を抱えた子どもの心をサポートする活動には、医療関係者の期待も高まっている。さらに、消費者を対象に園芸教室を開催して地域への花育活動を実施するとともに、消費者ニーズを掴む機会ともしている。平成22年には、若手女性農業者のグループ「カラフルリーフ」を結成して、担い手としても活動を行っている。



若手農家リーダー研修会の講演

池田 陽子 宮崎県日南市

平成7年結婚と同時に就農。平成16年にJAはまゆう女性部のフレッシュミズリーダーに就任し、若い世代が楽しめるような定期的な講座を提案した。「WINK(ウィンク)」と名付けた月1回の講座は、子育て世代の生きがいの場へと発展している。農繁期で活動に参加できなくても農繁期をすぎればまた仲間との時間を過ごせる「場」となっており、仕事・育児・家事のバランスを取りながら、活動を続けていけることに特徴がある。農家にとられず、漁業・商業・非農家の主婦にも呼びかけ活動してきた結果、JA女性部は50人増加した。若い女性の積極的な活動が、地域の活性化に繋がっている。

組織における女性登用部門



農業委員として活躍する岡野氏

岡野 とし子 埼玉県鶴ヶ島市

(市町村)

岡野氏は、昭和46年に専業農家に嫁ぎ、昭和63年に鶴ヶ島市初の女性農業者組織「ひまわり会」を発足させ、初代会長となった。鶴ヶ島市農業委員会では、平成17年から議会推薦2名を女性農業者から推薦することを決め、ひまわり会とJAいるま野女性部から1名ずつ女性農業委員を輩出している。氏は平成17年に鶴ヶ島市初の女性農業委員となり、遊休農地解消対策に取り組み、19haの遊休農地のうち1haの解消に結びつけている。また、市の男女共同参画推進プランの策定委員としてひまわり会の女性農業者が委嘱されるなど、ひまわり会を通じた女性の地域社会参画が進展している。



手料理を囲んでの他組織との交流

串間 21 レディ 宮崎県串間市

(農村女性リーダーの組織)

串間 21 レディは、宮崎県が認定している農村女性指導士で構成しており、様々な役職を担える女性リーダーが育成している。現在、構成員 12 名の中から 2 名の女性農業委員、2 名の審議員（農政懇話会、担い手協議会）、3 名が J A 関連の役員に登用され、各種の提言活動は地域でも広く認められている。行政頼みでない、構成員自らが見極めた人材を次期リーダーとして育成することで、確実な人材育成と目標がぶれないスムーズな組織運営を図っている。

農林水産大臣政務官賞

次世代を担う若手地域リーダー部門

経営参画部門



人工授精師の腕を磨いています

須貝 美穂 群馬県安中市

平成 15 年就農。就農当時、増頭が思うように出来なかった課題を、飼養管理方法の見直しを行うことで解消し、増頭に成功。労力の省力化と労働時間短縮のために県内でもあまり例がない「ロボット搾乳」も導入した。また乳牛の自家育成のために、人工授精師資格を独学で取得し、円滑な乳牛改良を可能とした。現在、乳牛の繁殖、育成牛管理のすべてを担当しており、飼養環境を各個体に合わせて牛の耐用年数を延長し、更なる生産性の向上、経営の合理化に取り組んでいる。加入している J A 青壮年部では、地域農産物の普及と消費拡大にも努めている。



イチゴの会のメンバーとともに
(前列左が奥村氏)

奥村 幸恵 滋賀県甲賀市

平成 12 年、茶の専業農家の後継者と結婚。平成 19 年から義母が加入しているイチゴ栽培グループで生産管理などを一部担当したが、平成 21 年から本格的にイチゴ生産に携わり、平成 23 年からはイチゴの加工品の開発・販売に意欲的に取り組んでいる。さらに、農事組合法人「グリーンティ土山」では、主に広報担当をしており、シンボルマークを作成するなど商品の知名度向上につなげている。農業・家事・育児をバランス良くこなし、同年代女性のモデルとなっている。

地域参画部門



アーティチョークの花

下山 直子 静岡県長泉町

平成 16 年、50 年以上続く柿園農家の 3 代目として家業を継いで就農。海外勤務、NPO 活動の経験による柔軟な発想から、町の観光交流協会において特産の四つ溝柿を県内外に PR し、認知度を高める活動や、農作業体験の受け入れを実施するなどの活動に取り組んでいる。また、アメリカ在住時に会ったアーティチョークの栽培を開始、日本では馴染みがないため、栽培方法の工夫や飛び込み営業などの努力を重ねて販路を開拓した。ホームページやブログを活用して全国に「農」の魅力の発信を行うとともに、経営においては、四つ溝柿、アーティチョークの栽培管理の他、広報や顧客管理を担当。2 年後に父から経営移譲の予定。



「お勧めは…」移動販売風景

浜田 博美 石川県金沢市

平成 15 年、底曳き網漁船船主の長男と結婚し就業。漁業を取り巻く環境の悪化により家業の経営が圧迫されるようになったため、魚を直接消費者に届けることとし、夫婦で移動販売「浜屋」を始めた。複数の市場での買い付けによる仕入量の安定・販売品目の増加、加工品の製造販売など、徹底して顧客のニーズに応える活動を行った結果、最初は数人だった顧客が 100 人以上にまで増加した。さらに移動販売販売地域以外の顧客も増え始めたため、メールによる注文販売も行っている。また移動販売を通して日常的な魚食普及活動を実践している。

組織における女性登用部門



郷土料理伝承会にて主催者挨拶

永松 カズ子 大分県豊後高田市

(農業協同組合、農業委員会)

永松氏は、長年様々な立場から女性登用に向けた活動に尽力しており、県全域での功績が認められる。会長を務める大分県農協女性組織協議会は、農協中央会に女性登用についての要望活動を行い、平成14年と早い段階から参与の役職を2名設定している。また豊後高田市における女性農業委員の登用に向け、豊後高田市農漁村女性集団連絡協議会の役員として、市議会、農協、農業委員会に対する地道な要望活動を行い1名の登用を実現した。また、直売所の運営に役員として関わり、自ら社会参画・地域活性化に取り組むとともに、若手女性の育成にも積極的である。

❖❖ 農山漁村女性・シニア活動表彰 ❖❖

農林水産省経営局長賞

A. 女性地域社会参画部門



消費者交流会で地産地消を推進

小磯 節子 茨城県笠間市

女性起業活動から6次産業化推進リーダーとしての取り組み

平成6年から18年間、直売や加工とこれを通じた地域振興に取り組む。平成17年に地域の「笠間地域産直・農産物加工ネットワーク」の初代会長となり、地域リーダーとして産直活動や農産物加工活動の発展に貢献してきた。さらに、平成16～17年には県域組織の「いばらき農村女性ネットワーク」の会長を務め、農業委員・農協理事への女性登用や女性起業活動を推進。平成16年にはJA茨城中央の理事となり、6次産業化の推進や農商工連携の取組の実現に向け、女性の視点で提言を行っている。



家族経営協定研修会にて

飯塚 信子 群馬県みどり市

農村地域での男女共同参画の実践

平成9年に群馬県農村生活アドバイザーの知事認定を受け、また町で初めて家族経営協定を締結し、県の模範事例として講演を行うなど、女性農業者の社会参画を推進する地域リーダーとして活躍。さらに、町の女性農業者会議の設立に尽力し、初代会長として男女共同参画ビジョンの策定に取り組んだ。平成17年、農業委員となり、現在は会長職務代理者も務めている。市内の農村女性リーダーと自治体の協働による「みどり市ブランド創出プロジェクト」から誕生した女性起業「みどり市とまクラブ」の副会長として、市のブランド商品の創出、PR、地産地消や食育の推進に取り組んでいる。



会員相互訪問研修の様子

いろいろアグリ 岡山県赤磐市

グループ活動が背中を押してくれる地域社会参画

平成12年、農業経営に主体的に取り組む女性達で結成。農商工連携による料理メニューの開発・普及や、鳥獣害被害対策としてジビエ料理研究を行うなど、地域資源を活用した地域の活性化に取り組む。会員から農業委員や指導農業士、市議員等も誕生しており、女性の社会参画に向けた関係機関への働きかけなど幅広い活動を行っている。また、農家女性の子育てと農業経営の両立に向けて公設民営の放課後児童クラブを設立するなど、女性が働きやすい環境づくりにも取り組む。

B. 女性起業・経営参画部門



お料理には真心と愛情をこめて

千葉 秀子 岩手県一関市

何事にもチャレンジして得られた宝物を後世に伝えたい

～家族とともに、仲間とともに、地域とともに～

平成8年、地域特産物「かにぱっと」で岩手県「食の匠」に認定。平成11年に農家レストランを開業後、「かにぱっと」の味の改良、真空冷凍保存技術の導入などで事業拡大を進め、地域のレストランとして定着。また、地域で生活改善グループを発足し、会長として活動を牽引。さらに、地域の直売所の開設に理事として携わるとともに、地元の原材料を使用した農産加工品を販売して、産直の集客や活性化に貢献しており、売上額も年々増加している。



私と夫はビジネスパートナーです

篠塚 のり 千葉県多古町

パートナーシップを発揮し法人経営へ発展ー経営のパートナーから社長に就任！ー

重労働を解消するため、ハウレンソウ等へ品目転換するとともに、付加価値を高めるため有機 JAS 認証を取得。また、20 人以上のパートの雇用管理者として作業環境改善等に取り組み、経営発展に貢献。有限会社を設立し代表取締役として経営手腕を発揮。さらに、「香取女性農業者会議」「アグリレディーズネットワーク in 多古」の組織化や、「ちば女性農業者の会」の副会長を務めるなど、女性農業者の経営参画や社会参画を推進。



夫婦で部門分担して柑橘経営

山崎 京子 愛媛県宇和島市

みかんの郷に夢を描いて

共同経営者として、農業経営や記帳・管理に積極的に取り組む。平成 13 年に県の農業指導士に認定、19 年には共同申請で認定農業者となり、女性認定農業者の海外研修に参加して女性の視点から情勢分析を行った。さらに、地元オープンした農家レストラン「法花津屋」の運営や、地域産品を詰め合わせたふるさと小包の販売など、常に新しいことにチャレンジする姿勢は農業者のモデルとなっている。

C. シニア起業・地域活性化部門



共同参画 4 夫婦で起業化

つまごい竹の子グループ 群馬県嬬恋村

嬬恋村の 6 次産業は男女共同参画で

平成 14 年に生活改善グループの有志が大豆加工販売を目指して発足し、運営は会員夫婦による男女共同参画を基本に男性は主に大豆生産、女性は加工製造を担当している。毎月の定例会は夫婦単位の出席とするなど、男女共同参画の先駆的事例として各地の研修会に講師として夫婦で招聘されることもあり、農村起業経営の裾野を広げる取組と特筆される。主力商品の豆腐のほか、カップ納豆等の新商品開発にも成功し事業を成長させている。



心の絆 まあま喜ね舎
笑顔と未来

企業組合ファームまあま喜ね舎 福井県福井市

企業組合で「福井の母ちゃんの味」を継承

農業協同組合直営の「アグリらんど喜ね舎」の加工施設を活動拠点として、個別に活動していた地元の農家女性の 11 グループが統合し、組織の一本化を実現した。味の統一、材料仕入れの一元化、若手と高齢者をペアにした無理のない勤務体制、部門別責任者の配置などの工夫により、組織を大きく発展させた。組織再編後、一年で「企業組合」として法人化、福利厚生等の充実により女性・熟年農業者が安心して働ける場を提供している。



くらしの工夫展
島野菜を見直そう

与那国町生活改善実行グループ連絡研究会 沖縄県与那国町

日本最西端の食文化を支えるおばあたちの「ふれあい市」と「島の特産品作り」

昭和 35 年に地域の生活改善を目的として与那国町各地区の生活改善グループから結成された。島で生産される農水産物の調理・加工方法の研究・勉強会、技術の交換を行い、長命草、島トウガラシ、カジキなどの特産品作りに貢献した。また、会員が作った農産物と加工品を販売する「ふれあい市」は、地域社会に根付いている。島を元気にしたいと地域の活性化の取組、島の食材の伝承料理講習会・体験受入を行い、活動の幅も広がっている。

林野庁長官賞

(A. 女性地域社会参画部門)



おばしゃんの店「清流」

物産販売所「清流」 愛称おばしゃんの店「清流」 福岡県八女市

おばしゃんの店「清流」(せいりゅう)～20年のあゆみとこれから～

八女市星野村の観光施設が集まる「星のふる里公園」内で特産品販売を20年間続けてきた。星野村で生産・加工された商品にこだわりを持ち、オリジナル加工品「まるごと椎茸」「干し筍と椎茸の佃煮」等は全国生活研究グループ連絡協議会の「手づくり加工推奨品」に認定されている。現在、会員の半分が個人の加工施設を持ち、商品の数は500種類を越える。地域イベントの企画・運営を行い、村の地域活性化推進に欠かせない存在。7月の九州北部豪雨で被災したが、復旧にいち早く取り組み、9月1日から営業を再開し、地域復興の足がかりになっている。

水産庁長官賞

(A. 女性地域社会参画部門)



船上料理でおもてなし

遠山 菊江 熊本県芦北町

お客様の「また来るね!」を聞きたくて…～芦北町・観光うたせ船～

水産業を取り巻く環境は漁獲量の減少など厳しい状況にあるが、伝統的漁法であるうたせ網漁で漁業経営の安定を図るため、「観光うたせ船」を行うようになった。水産業界では珍しく観光に軸足を置いた「観光うたせ船」の成長の可能性を再認識し、船上料理の見直しやおもてなしに関する研修を企画するなど、サービスの資質向上に積極的に取り組んでいる。さらに漁協と連携して「観光うたせ船」のPRを実施するとともに、イベント船の運行、発着場の美観の確保を行うなど利用客増加に向けて取り組み、近年では同業者の中でもトップクラスの乗船客数を誇り、観光と漁業を組み合わせた安定経営を行っている。

優良賞

全国漁業協同組合連合会長賞

(B. 女性起業・経営参画部門)



海を眺め食べる漁師料理に心と和む

蒲入水産有限会社加工部 京都府伊根町

「漁港めし」で地域を活性化

平成15年、地域の全62戸が出資して設立した組織の内、主要事業の水産加工販売を担う。「漁港めし」は、素朴さ、新鮮な食材などが評判となって、その売り上げは右肩あがりに増加しており、地域への経済効果は大きい。女性の活動に、漁を終えた男性が協力する等、地区住民が一致協力した体制で取り組む。近隣の12集落が連携して「本庄・筒川里力再生協議会」が結成され、食材の調達などで近隣集落との連携も強化されている。過疎・高齢化が進む漁村において、雇用の拡大、後継者の確保など先進的な取り組みとなっている。

全国農業協同組合中央会長賞

(C. シニア起業・地域活性化部門)



つくしんぼうの会のメンバーたち

JA愛知東助け合い組織つくしんぼうの会 愛知県新城市

地域を元気に！一地域の農産物を活用した手作り加工品がつなぐ農と食と人ー

平成10年に、デイサービスや家事援助サービスなど高齢者福祉事業を行う組織として設立。高齢者向けの弁当作りを手始めに地域農産物を利用した農産物加工に取り組んでいる。同会が地元の農産物を有効に利用して開発した「八名丸まんじゅう」「うめぼん酢」などの商品はいずれも人気商品となっており、販路拡大にも取り組んでいる。また、若い世代との食と農を通じた交流も行い、地域の子どもの対象とした「こども農学校」では講師役として参加して、子どもたちの地域農業への理解を深めるためにも活躍している。